



2015年10月28日

**KEN OKUYAMA DESIGN(ケンオクヤマデザイン)第44回東京モーターショーにて
kode9 Spyder プロトタイプ、kode9 プロダクションモデル、kode7 シリーズIIの
3モデルをワールドプレミア公開**

株式会社 KEN OKUYAMA DESIGN(東京都港区 代表取締役:奥山 清行)は、第44回東京モーターショー(一般公開日:10月30日~11月8日、会場:東京ビッグサイト)にてプレスブリーフィングを行いました。



弊社は様々なジャンルにおけるデザインコンサルティング業務を行っておりますが、創業9年目を迎え秋田新幹線から北陸新幹線など鉄道関連への取り組み、ヤンマー(株)(本社:大阪府 代表取締役社長:山岡健人)取締役としての総合的デザイン開発、工作機械のデザインなど業務内容は大きく拡がり、年商10億円従業員40名を事業計画とする規模の企業に発展致しました。その中で自動車事業は積極展開の時期を迎え、今回は前回の東京モーターショーにて発表した2モデルをベースとして3台のワールドプレミアモデルを公開しました。イタリアのカロツツェリアにて培った経験と実績を活かし、これらの少量生産ハンドメイドモデルのみならず、更に顧客からの発注によるオーダーメイドのワンオフモデルのプロジェクトも複数スタートし

ています。その中でも、来年の北米モントレー・カーウィークにてローンチを予定している V12 エンジンをフロントミッドマウントしたスーパースポーツを既に製作中です。KEN OKUYAMA DESIGN は日本ならではの新しいカロッツェリア・ビジネスを構築すべく進めて参ります。

ローカルレース等と公道使用をターゲットに軽量化や高性能を追求した2座席オープンタイプスポーツカー **kode7 Series II** (コードセブン シリーズツー)は、更なるボディー軽量化と高剛性化の全面設計変更を行い量産第二段階へと移行します。

また前回の東京モーターショーにてコンセプトモデルとして発表した2座席クーペタイプ スポーツカー **kode9** (コードナイン)は、プロダクションモデルのデリバリーが開始され 2015 年モデル 5 台は既に完売致しました。

今回の展示の目玉となるのは **kode9 Spyder** (コードナイン スパイダー)量産プロトタイプです。クーペタイプの **kode9** に続いて 2016 年生産を予定している、オープンエアを楽しむことができるライトウェイト・スパイダーです。限定 5 台の受注を東京モーターショーの公開をもって開始します。

加えて、前回の東京モーターショーにて公開した、弊社デザインによるヤンマー株式会社のコンセプトトラクターに引き続き、大型量産モデル YT5113 とミニ耕うん機 YK650MR が展示されました。

更にブース内には、ライフスタイルの一環として夢のある自動車の楽しみ方を提案し続けてきた弊社が企画製作した家具、アイウェア、インテリアプロダクツもコーディネートの一環として展示されています。

「kode9 Spyder (コードナイン スパイダー)プロトタイプ」(ワールドプレミア)



クーペタイプの kode9 に続いて、kode シリーズに設定される2座ライトウエイト・スパイダーモデル kode9 Spyder を発表いたしました。クーペモデル譲りの基本プロポーションの持つ魅力をひたすらシンプルにまとめ上げたスタイリングコンセプトは、よりエレガントな表情を醸し出し、力強いフェンダーアーチはリアルスポーツカーとしてのアイデンティティを表現します。

クーペのスポーティーさをそのままにオープンエアを楽しむことができるスパイダーは、ボディ剛性、重量増加などのオープン化によるスペックダウンは一切ありません。それどころか、各種ボディ構造の改良やソフトトップの採用により、クーペモデルより軽量化を達成しています。

kode シリーズ各モデルは、世界の一流サプライヤーの協力の下、最新の素材テクノロジーを取り込んだ設計を実現しています。軽量かつ安全性の高いアルミ押し出し材シャーシを採用し、ボディは社内製造の軽量カーボン技術、ヤマザキマザックによる高性能 CNC 切削技術、3D プリンターによる部品製造技術など多くのテクノロジーを取り入れました。各モデルは弊社英国法人にてシャーシ加工、パワートレイン、ボディのアッセンブルを完成させた後、山形ファクトリーにて最終仕上げ、テスト走行などを行い、顧客の元へ直接お届けしております。

ミッドマウント横置きエンジンは、クーペと同様にカスタマーの好みにあわせてセレクトが可能です。展示バージョンはスーパーチャージャー付き 1.8 リッター 4 気筒エンジンが搭載されており 780kg の軽量ボディ(ライトウェイト・カーボンファイバー仕様)とのコンビネーションにより、低重心化されたボディ構造と相まって世界最高レベルのハンドリングをお楽しみ頂けます。

限定数 5 台の受注を東京モーターショーの公開をもって開始します。価格は仕様によって異なるため KEN OKUYAMA CARS にてお見積もりいたします。

「kode9(コードナイン)プロダクションモデル」(ワールドプレミア)



前回東京モーターショーで発表されたコンセプトモデルの生産モデルのデリバリーが既に始まっています。レースカーとスポーツカーの中間に位置するスパルタンなライトウェイトスポーツカーの登場です。kode9 にいわゆる表面的スタイリング要素は全くありません。現在のデザイントレンドとは正反対のシンプルでプロポーションだけで見せるクルマ本来のデザインを強調しました。基本プロポーションの持つ魅力をひたすらシンプルにまとめ上げたスタイリング、過剰なまでにつくり込む今のトレンドに対抗して、微笑みたくなるような愛嬌あるフロントマスクは、クリーンでダイナミックな 60~70 年代の憧れのレースカーデザインを現代の技術で路上に実現いたしました。ボディには余計なキャラクターラインなど無くとも、フェンダーアーチやテ

ールフィンが力強いスポーツカーのアイデンティティを表現しており、現在の解りづらく複雑なカーデザインへのアンチテーゼでもあります。

ミッドマウント横置きエンジンは、カスタマーの好みにあわせて様々なセレクトが可能となります。展示バージョンはスーパーチャージャー付 1.8リッター4気筒エンジンが搭載されており 810kg の軽量ボディ(カーボンファイバー仕様)とのコンビネーションにより、現在の重量級スーパースポーツとは一味違う軽快な運動能力を楽しむことができます。

市販車として類をみないオーバーハングの短く軽い前後ボディ、重量物を極力低くセンターにマウントしたバランスのよいシャーシ、ピローボール付き翼断面サスペンションアームを採用したフルアジャスタブルサスペンションなどコンペティションユースに対応するほどの強固で軽量な足まわりを採用しています。(注:仕様によりスペックは異なります)

スポーツカーでありながら現代のグランツーリスモとしての快適性も十分に兼ね備えています。オーダーメイドでセレクト出来るインテリアはカーボン、レザー、アルカンターラなど最高級マテリアルの手触りを楽しむ事ができます。エアコンなどの標準装備はもちろん、十分なキャビンスペース、脱着式タルガルフによる解放感を味わって頂けます。リアの視界を確保する為、リアフィンに小型カメラが装着され、常時、ルームミラー内に位置するモニターで死角のなりリアビューを確認することができます。リアウィンドーバージョンもオーダー可能です。

Kode9 2015 モデルは限定 5 台を既に完売し、今秋よりデリバリーが開始されています。現在、クーペは更に高性能化した kode9 GT(コードナイン ジーティー)(予定)へと進化すべく開発を進めております。

「kode7 Series II (コードセブン シリーズツー)」(ワールドプレミア)



2008年ジュネーブショーにて発表された kode7 は、今回ボディ構造を中心として全面的に設計変更を行い、更なるクオリティの向上と、ボディ剛性、軽量化を達成したシリーズ II へと移行しました。

このフォーミュラスタイルのハンドメイドスポーツカーは、他モデル同様、オーナーの希望に沿った世界に一台しかない車を造り上げる事が可能であり、『モダン、シンプル、タイムレス』という KEN OKUYAMA DESIGN の基本コンセプトを具現化する無駄のないシャープなスタイリング、そして極度に切り詰めたフロント&リアのオーバーハングはオートバイのような機敏なハンドリングを実現します。

当モデルは、サーキットやスポーツ走行を楽しむ為、シンプルでよりライトウェイトにこだわり、かつリーズナブルな価格を実現しています。可動式バイザーやリトラクタブル式ヘッドライトなど快適性の為の機能を非装着とすれば、より走りに徹する仕様を選択頂くこともできます。ライトウェイト・カーボンファイバー仕様では 700kg を切り、卓越したパワーウェイトレシオを実現します。

展示バージョンは 250PS にチューンされた NA1.6 リッター4気筒エンジンを搭載し、様々なレースと路上走行に対応する装備を備えます。

Kode7 Series II は 今秋より既にデリバリーが開始されております。価格は仕様によって異なるため KEN OKUYAMA DESIGN にて見積もりいたします。

「YANMAR TRACTOR YT5113 Limited Special (ヤンマートラクター ワイティー5113 リミテッド スペシャル)」

KEN OKUYAMA DESIGN がデザインした、ヤンマー製トラクターのフラッグシップモデルYTシリーズ。いままでのトラクターのデザインを遥かに上回る革新的なスタイリングを採用し、ラウンドガラスによる広々とした前方視界の確保に加えて高い居住性と快適な操作性をあわせもつ。そして何より所有する喜びをオペレーター一感じせるとともに農業の未来をも訴求しています。



「YANMAR MINI TILLER YK-MR(ヤンマーミニ耕うん機 ワイケーエムアール)」

「ALL-IN-ONE すべてを一台に。すべてを簡単に。」をコンセプトにデザインされた全く新しいカタチのミニ耕うん機がヤンマーYK-MRシリーズです。一台で様々な作業がワンタッチで行える作業性の良さと、機体全体を覆うフルカバーデザインによる安心感や手入れの簡単さ、そして機体のQRコードをスマートフォンなどで読み込むと使い方が動画で閲覧できるセルフケアサポートも提供しています。

以 上



[奥山清行プロフィール]

奥山 清行(おくやま きよゆき)Ken Kiyoyuki Okuyama



工業デザイナー / KEN OKUYAMA DESIGN 代表

1959年 山形市生まれ。

ゼネラルモーターズ社(米)チーフデザイナー、ポルシェ社(独)シニアデザイナー、ピニンファリーナ社(伊)デザインディレクター、アートセンターカレッジオブデザイン(米)工業デザイン学部長を歴任。フェラーリ エンツォ、マセラティ クアトロポルテなどの自動車やドゥカティなどのオートバイ、鉄道、船舶、建築、ロボット、テーマパーク等数多くのデザインを手がける。

2007 年よりKEN OKUYAMA DESIGN 代表 として、山形・東京・ロサンゼルスを拠点に、企業コンサルティングのほか、自身のブランドで自動車・インテリアプロダクト・眼鏡の開発から販売までを行う。

2013 年よりヤンマーホールディングス株式会社取締役。

東京モーターショー2013 では新型クーペ「kode9」がワールドプレミアを飾った。

また、秋田新幹線、北陸新幹線、2017 年運行開始予定の豪華列車「四季島」、トラクターを始めとするヤンマー製品など次々に手掛けている。

滋慶学園 COM グループ名誉学校長、アートセンターカレッジオブデザイン客員教授、金沢美術工芸大学客員教授、山形大学工学部客員教授。『フェラーリと鉄瓶』(PHP 出版社)、『伝統の逆襲』(祥伝社)、『人生を決めた 15 分 創造の 1/10000』(KEN OKUYAMA DESIGN)、『100 年の価値をデザインする』(PHP ビジネス新書)など著書や、講演活動も行う。

[KEN OKUYAMA DESIGN カンパニープロフィール]

名称:株式会社 KEN OKUYAMA DESIGN

所在地:

青山スタジオ & ショールーム:東京都港区南青山 7-10-9

山形ファクトリー:山形県山形市清住町 3-10-6

ロサンゼルスオフィス:Los Angeles, U.S.A.

御殿塚ショップ:山形県山形市七日町 2-7-6 TEL:023-673-9226

代表取締役:奥山清行

資本金:1億円

主要事業:

デザイン・企画・開発 / コンサルティング / 自社プロダクト企画販売

(ワンオフ注文生産車を含む) / ライセンシング

沿革:

2006 年 10 月 山形県山形市に本社設立

2007 年 4 月 株式化

2007 年 5 月 KEN OKUYAMA EYES 発表

2008 年 1 月 メゾンエオブジェ(フランス)で山形工房新作発表

2008 年 2 月 第三者割当増資を実施

2008 年 3 月 ジュネーブモーターショー(スイス)で k.o7、k.o8 発表

2008 年 4 月 ミラノサローネ(イタリア)で山形工房新作発表

2008 年 5 月 アメリカ子会社設立

2008 年 9 月 東京オフィス開設

2010年4月 山形ファクトリー開設

2010年5月 山形市七日町御殿塚「KEN OKUYAMA CASA」オープン

2012年12月 東京オフィスを南青山に移転。青山スタジオ開設。

2013年1月 青山ショールーム&スタジオ正式オープン。

2013年11月第43回東京モーターショー出展

[SNS]

ツイッター : twitter.com/KenODesign

facebook : www.facebook.com/kenokuyamadesign

[関連サイト]

KEN OKUYAMA DESIGN 公式サイト : www.kenokuyamadesign.com/

第44回 東京モーターショー : www.tokyo-motorshow.com/

当件に関するお問い合わせ先 :

KEN OKUYAMA DESIGN

プレスリリース担当 牧野

Mail: pressrelations@kenokuyama.com

〒107-0062 東京都港区南青山 7-10-9 / TEL:03-5466-2860